

あさひやま
どうぶつえんだより

みに

だい
111
ごう

ニホンカナヘビ



「はちゅうるい」は

- たまごから うまれる
- からだは がんじょうな うろこで おおわれている
- 「だっぴ」して あたらしい うろこに かわる
- まわりの けしきに とけこむ いろを している
- たいおんを うまく ちょうせつできない

した くうきの においを かいでいるよ。
「した」の さきっぽは
→ みたいに 2つにわかれているよ。

「はな」は ここ

め うすい まぶたが あるよ。
※ヘビには まぶたが ないよ。

みみ 「め」の うしろにある
「あな」が 「みみ」。

ここが しっぽの
つけね↓

とても ながい
しっぽ

ときに おそわれた ときに
じぶんで しっぽを
きって にげるよ。
きれた しっぽは
だんだん はえてくるよ。

「ニホンカナヘビ」のからだ

まえあし/うしろあし



まえあしの
ゆびは
5ほん

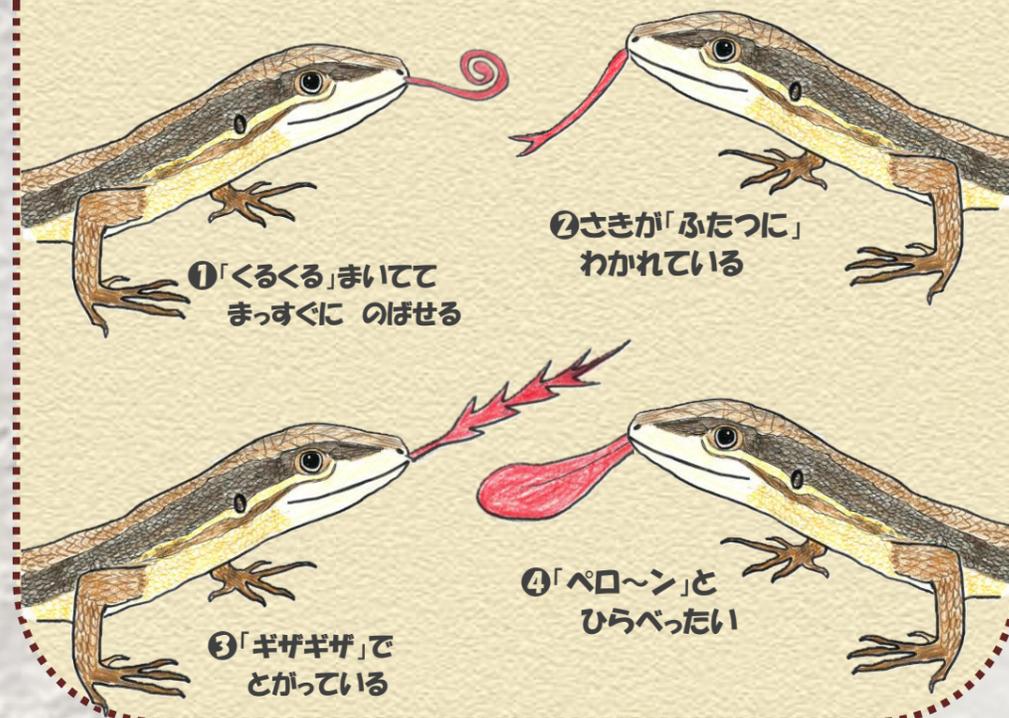


うしろあしの
ゆびは
4ほん



もんだい

ヘビに あしが はえたように みえる「ニホンカナヘビ」。
「ニホンカナヘビ」の「した」は ヘビと おなじ かたちを しているよ。
どんな かたちを しているでしょうか。



こたえは②。さきが「ふたつ」に わかれているよ。
ヘビも「した」で くうきを しらべて においや
あじを みているよ。両生類・は虫類舎に
ヘビが いるから ぜひ「した」も
かんさつ してみてね。

ニホンマムシ→

